

# わどまり

2022.3/No.380

沖永良部島 和泊町広報誌

## 公共施設マネジメント



バランスの取れた未来へ



# 公共施設 マネジメント

## バランスの取れた未来へ

「公共施設マネジメント」とは、地方公共団体が所有している公共施設（道路や上下水道等のインフラ資産を含む）の全体を把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合等を計画的に行うことです。

日本の公共施設は、人口が急増した高度経済成長期から平成のはじめにかけて、集中して整備が進められてきました。その当時、建設された公共施設の建築年数は現在30年以上を経過し、老朽化が大きな社会問題となっています。

本町においても例外ではなく、老朽化した施設が数多く存在しています。地方公共団体の公共施設マネジメントに関する大きな動きとして、平成26年4月22日に総務大臣から「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」が、全国の自治体に通知されました。本町においても、平成26年10月1日に「和泊町公共施設等マネジメント推進プロジェクトチーム」が設置され、全庁的な取り組みを開始しました。

プロジェクトチームでは、和泊町における公共施設マネジメントを推進するため、和泊町が所有している公共施設を把握する「固定資産台帳」の整備及びデータベース化や公共施設の維持管理方針の検討などに取り組み、町が所有する全ての公共施設の維持管理、更新などの基本方針を定めた「和泊町公共施設等総合管理計画」の策定を行いました。今後の公共施設等の更新費用推計によると、更新には多額の予算が必要となり、また、インフラ等の施設は削減が困難

であることも踏まえ、本計画においては、今後40年間で建物系公共施設の延床面積を約30%削減することを目標に掲げています。

本町が所有する建物系公共施設は、148施設あり、その内、築30年以上経過する施設が全体の3割、築20年以上経過する施設となると6割を超え、その割合は今後更に増加することが予想されます。これらの施設が更新時期を迎えると、大規模修繕や更新に多額の費用が必要になり、全ての施設の維持は、町の財政に大きな負担をかけます。また、道路や上・下水道等のインフラ系公共施設についても同様の事が言え、今後対策が必要となってきます。

これまで、他の自治体に先駆けて実施した、小中学校の校舎の建て替えや公共下水道の整備、町独自の施策として実施した有線テレビ施設の整備や健康増進施設タラソおきのえらぶの建設など、町民の福祉向上のための積極的な公共施設整備、すなわち公共投資を行ってきましたが、これら施設の更新や老朽化対策、住民ニーズの変化や空き施設の有効活用などの課題がでてきました

人口減少・少子高齢化が進む中、全ての公共施設を現状規模のまま再整備するのではなく、今後の公共サービスの需要量の変化やニーズに対応した、公共施設の適正配置と有効活用について、早急に検討を進めることが求められています。未来の和泊町に合った「公共施設マネジメント」を考えなくてはなりません。

地方自治法第2条第14項では、「地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」としている。みんなで共有する施設やサービスを運営する際には、効率化を実現しなくてはならないということである。

そのためには、2つの効率性が満たされなければならぬ。1つ目は、地方の限られた資源を最も有効に活用して、住民への公共サービスの水準を最大限に高めることである。資源の量が同じであっても、効率的に利用することによって、多くの住民にサービスが行き渡れば、住民の満足度は上がることになる。このことを「生産の効率性」という。2つ目は、供給する公共サービスが住民のニーズに合っているかどうかである。資源の量が同じであっても、使い方を変えることによって住民の満足度をあげることができるのであれば、住民のニーズに合わせるべきである。文化サービスより福祉サービスの方を住民が望むのであれば、文化サービスを減らして福祉サービスを増やす方が良い。これを「配分の効率性」という。

「最少の経費で最大の効果を挙げる」という目標を達成するためには、この2つの効率性の両方を満たさなければならない。公共サービスののために財源を利用する際に、生産の効率性を達成できたとしても、そのサービス自体が住民のニーズに合っていなかったり、

## 公共施設マネジメント #1

# 公共投資の 考え方について

鹿児島大学法文学部教授（財政学・地方財政論）

林田吉恵

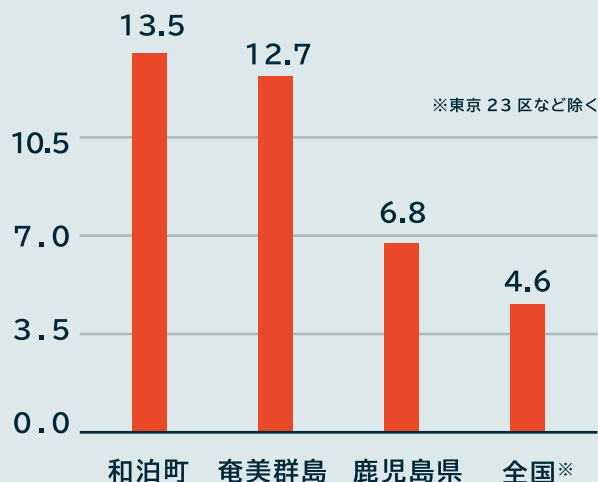
優先順位が低いものであったりするのであれば、それは非効率的であるといえる。わが国では、すでに多くのインフラ（社会資本）が整備されているが、高度経済成長時代に整備された施設の更新時期も迫っており、その設備や公共サービスが本当に必要なのを見極めなければならぬ。その際に最も重要なことは、便益（利益）と費用をきちんと捉えて、更新に資源を利用するかどうかを決めなければならぬということである。

資源の効率的利用を考える際には、きちんと費用を算定しなければならぬ。費用の算定には、公共支出にかかる支出額だけではなく、減価償却や間接部門の人件費など、現行制度で曖昧になっている費用も含めなければならぬ。また便益に関してもしきちんと提示されなければ公共サービスの評価ができない。この費用と便益が示されて初めてその公共サービスを継続するかどうかを考えることができるようになる。

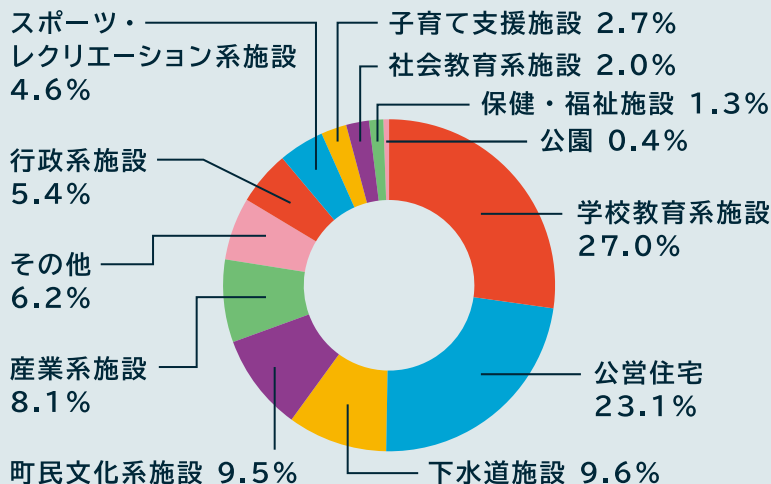
さて、先ほども述べたようにわが国では高度経済成長期から平成のはじめにかけて建設されたインフラが、すでに30〜60年経過していることから、施設の老朽化が急速に進んでいる。厳しい財政状況下で、その老朽化した公共施設について、何を削減し、何を維持・更新するのか、統合や合併、公民連携などの財源調達も含めて考えていかなければならないが、それ以外に廃止等の意思決定をしなければならぬところに来ている。

# 和泊町の公共施設

● 人口1人あたりの公共施設延床面積(m<sup>2</sup>)

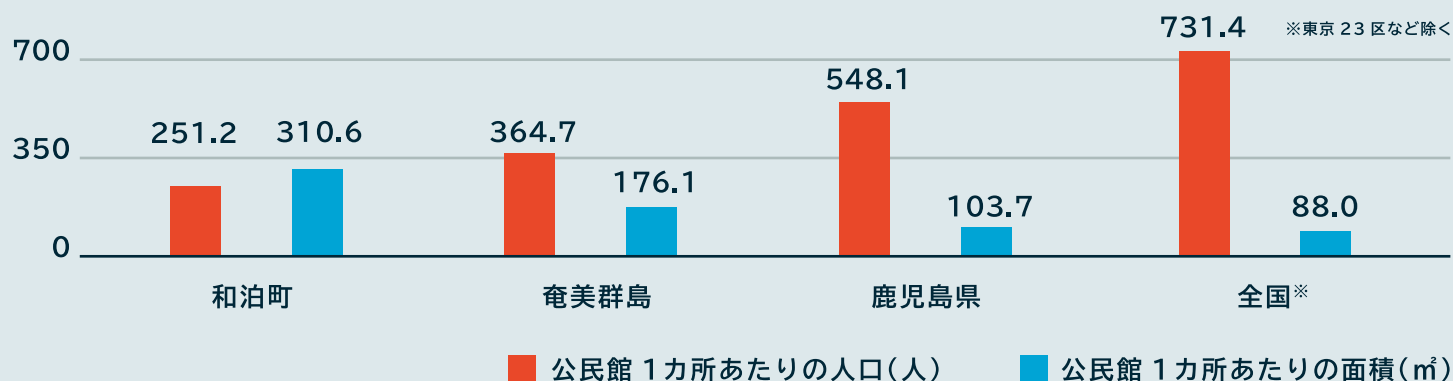


● 施設用途別延床面積(m<sup>2</sup>)



和泊町の人口1人当たり公共施設延床面積は約13.5m<sup>2</sup>。奄美群島内では平均をやや上回る程度だが、鹿児島県平均の約2倍、全国平均の約3倍である。施設を用途別の内訳で見ると、教育施設と公営住宅の割合が高いことが分かる。

● 公民館(集会施設)1カ所あたりの人口と面積



公民館(集会施設)は町民文化系施設に分類され、町民の生活と密接に関わっている。他の自治体と比較すると、和泊町が字の公民館を非常に大切にしているという特徴が浮かび上がる。和泊町では町民約250人につき1つほどの公民館を持っており、全国的には約3倍の約730人に1つのバランスとなっている。それだけ和泊町には公民館が多いのだが、多いのは数だけでなく、1カ所あたりの面積も全国平均よりも3倍以上大きい。字の中心として大きな役割を担ってきた公民館。これからも字の結束を高め続けるための公民館を維持するには、他の部分で公共施設を減らしていくという選択肢を視野に入れる必要があるのかもしれない。

## はじめに

昨年6月に行われた町長選は、多数の候補者による論戦や僅差での決着など、様々な点で和泊町にとって新しい挑戦であったと聞いております。その中で、町の借金や財政についても議論があったそうですね。実はこの「町の借金」というものは、今回の特集テーマである公共施設の問題と表裏の関係になっております。極論すれば、町が持っている施設を減らしていけば借金は減っていきます。しかし、借金の問題は公共施設と表裏であるがゆえに簡単に減らせるものではありません。借金の裏に施設があるということは、借金の裏には町の施設を利用して助かっている多くの町民が存在するのです。生半可な覚悟では解決できません。町長・議会・役場職員・町民：和泊町の総力を挙げた挑戦が求められていると、私は考えます。

## なぜ借金が生まれるのか？

まずは、なぜ町に借金が生まれるのかを考えてみましょう。遠回りに思われるかもしれませんが、私がしばしばお付き合いください。令和2年11月に公表された和泊町財政事情を見ると、町には約100億円の借金があり、目的ごとに異なる名前が付いています。国が法律によって「こういう目的なら借金をしても構わない」という制限をかけており、そのルールに応じて異なる名前が付いているのだ、と理解いただければ、

## 公共施設マネジメント #3

# 和泊町 3つの挑戦

鹿児島大学法文学部准教授（会計学・財務会計論）  
和泊町第6次総合振興計画等推進アドバイザー  
澤田成章

十分かと思えます。単に資金不足で借金しているわけではありません。大きな仕事をする予定があり、法律の範囲内の合理的な借金でなければ、お金を借りることはできません。

なぜ町は借金をするのか。具体的に和泊町役場の新庁舎を例に考えてみましょう。新庁舎の建設には約14億円（和泊町負担分）がかかっており、うち約13億円が公共施設適正管理推進事業債という借金によって賄われています。建設費を捻出するにあたり、大きく2つの視点から考えることができます。1つは現金をどのように準備するのか？もう1つは誰の税金を使って建てるのか？です。

第1に、多額の現金を準備しなければなりません。建物の建設など、まとまったお金が必要な事業を無借金で行うのは大変です。無借金にこだわるならば、当該年度の他の町民サービスを大幅に諦めて建設しなければなりません。そこで、現実には借金によって賄うという選択肢が採用されます。

第2に、誰の税金を使って建てるのか？という問題があります。ここでいう「誰の」とは、○字の○○さん、といった特定個人ではありません。2019年に建設された役場新庁舎は、その後約50年間、町民サービスの提供のために使用されます。これをすべて、2019年の納税者のみが負担するという構造は公平と言えるのか？言い換えれば、現世代の税金のみで建てるのか？将来、役場のサービスを受ける人たちの税金も使うのか？ということが論点になります。↖

そう考えてみると、借金をすることで将来世代の受益者にも建設費を少しずつ負担してもらおうという考え方も一つの公平の在り方とも言えます。こうした、受益者負担の観点から借金が生まれる理由を説明することができません。受益者負担と言ってしまおうと聞こえはいいのですが、もちろん負担を将来に繰り延べただけという見方もあります。このあたりのバランスは非常に難しい問題ですね。

これ以外にも様々な理由がありますが、端的に言ってしまうえば「大きなお金を使って長期間使用する施設を建てるから借金が生まれる」。概ねこれに尽きます。

## 和泊町の公共施設 マネジメントの難しさ

ここまでの特集で紹介されていたように、和泊町にはたくさんさんの公共施設があります。和泊町公共施設等総合管理計画では、策定された2017年から40年間で公共施設の延べ床面積30%削減を目標にしています。公共施設を30%削減することによって少しでも将来に残る借金を減らしていこうとする考え方が現れているのだと私は解釈しています。

「和泊町には公共施設が多すぎる。」「施設を建てるから借金が増えるのだ。」「こう言うと、パツと思いつく2つの考え方があります。1つは、施設を建設しなければいんだ」という急進的な考え方です。もう1つは「全部一律に」



減らせばいいんだ」という考え方です。いかにも日本人的な、平等を重んずる考え方です。

しかし、現実的にはこれら2つの考え方はどちらも採用するのが困難です。まず、施設の更新を止めてしまうと、本来に必要な施設まで失われてしまう可能性があります。また一律30%カットというのも現実的ではありません。たとえば学校の体育館の面積を30%削減すると、競技が成り立たなくなるかもしれません。バスケットボールのルールが変わらなければ、コートも30%小さくすることはできないのです。

本当に必要な施設はどれか。どの施設を残すために、どの施設を我慢するのか。全体観とパランス感覚をもった判断が必要になると考えます。判断には苦しみが伴います。苦しみを乗り越え、みんなが納得できるような未来を創っていくために、3つの挑戦が不可欠であると私は考えています。

## 第1の挑戦 町長・議会の挑戦

まずは、選挙で選ばれた町長・町議会議員の皆さまが立ち向かうべき挑戦について。選挙で選ばれた立場の皆様は、リーダーとして率先して公共施設マネジメントに取り組む姿勢が求められると考えます。財政健全化や起債残高圧縮に向けた取り組みについて町民からの視線は今後、より厳しいものとなるでしょう。

日本政府の財政がいまほど苦しくなかった頃

には、政府の支援を受けて町が公共サービスを拡げていくことが可能でした。そのため、公的サービスのサポートが届いていない部分を見つけ出し、改善に向けて働きかけることがリーダーの重要な役割でもありました。

これからはさらに、リーダーとして選択と集中の旗を振ることも求められるように思います。町長・町議の皆さまは、財政を健全化するために「何を廃止するのか」。言い換えれば「誰に、どの程度の我慢をお願いすることになるのか」を判断していくことが求められるかもしれません。

## 第2の挑戦 役場職員の挑戦

役場職員の皆さまにも、挑戦すべき課題があります。減らす作業は、増やす作業と比較して摩擦の大きな作業です。議会や町民の皆さまだけでなく他の課の職員の方々に対しても、これまで以上に説明責任を果たすことが求められるでしょう。そのためには、まずは、誰よりも役場職員自身が勉強しなければならぬと考えます。さらに、時間を確保することが求められます。

財政や法律に限らず役場職員が学ぶべきことは山ほどありますし、学ぶ機会も豊富に存在します。広く学び、多面的に考え続けることではじめて、理解しやすい説明が可能になると考えます。しかし、学び続けるためにはそれなりの時間が必要です。丁寧に説明できるように資

料を準備しようと考えると、時間と労力がかかります。そこで、「時間の確保」です。

1つの手段として、役場内の業務の効率化を徹底して図ることが挙げられます。日常業務に忙殺されたままであれば、学びも工夫も長くは続きません。業務の1つ1つを付加価値の高いものと低いものに分類していき、人件費に見合う付加価値の高い作業やプログラムでは処理しきれない高度な判断こそ、役場職員が頭を使って取り組むのが理想でしょう。こうすることで、スキルアップのための時間も確保できますし、じっくり知恵と工夫を絞る余裕が生まれると考えます。

## 第3の挑戦 町民ひとりひとりの挑戦

最後に、町民の皆さまにも、挑戦すべき課題があると考えます。責任ある立場としての「あれかこれか」の選択です。町のサービスを「あれもこれも」受けることができる時代ではなくなくなりました。町民の皆さま自身で、何をあきらめるか、残すのは「あれかこれか」を真剣に考え、議論することが求められていると考えます。時には、ある程度の不便さを受け入れる覚悟も必要になるかもしれません。

日々の家計のやりくり、民間企業の経験、栽培計画と天気のにらめっこ・・・様々な分野のエキスパートである町民の皆さまが、わがまちわどまりの未来を真剣に考え、知恵を結集することが重要であると考えます。

## むすびに代えて

残念ながら私は島外の人間です。その意味では、無責任な立場です。しかし、私は和泊町が好きです。和泊町にいま生きている町民の皆さまの判断・決断を、町長・議員の皆さまのリーダーシップで汲み取り、役場職員の皆さまの知恵と工夫で実現していく。こうした連鎖を紡ぎ、和泊町が末永く暮らしやすい町として栄えていくことを応援しております。

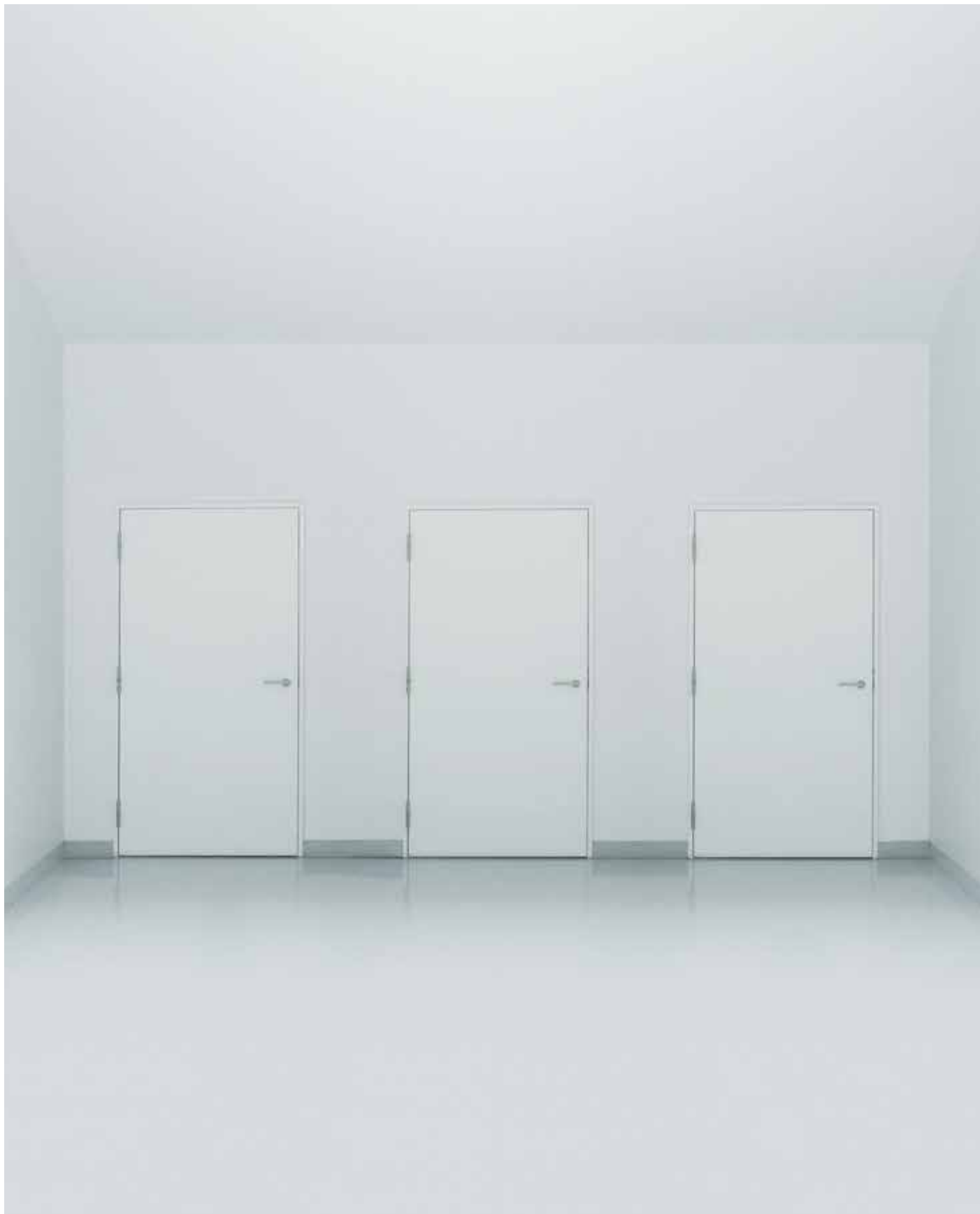
今回の広報誌では、和泊町が持っている公共施設について、町民みんなで考えを巡らせ、議論する土台となるような特集を企画しました。

激動の時代のなか、これからの和泊町のあるべき姿をみなさんとともに考えていきたいと思っております。

次号からは、公共下水道やこども園など、個別の公共施設について、前が思う疑問点に焦点を当て、深掘りする連載をスタートしますので、よろしくお願いたします。

和泊町長 前 登志朗





“3つの挑戦”という扉の先が  
和泊町の明るい未来への道に  
つながっているかもしれない。

# TOPICS



## 「えらぶ世之主伝説」わらんちゃヤンバル体験交流プロジェクト

12月27日、和泊町役場結いホールにて、「えらぶ世之主伝説」わらんちゃヤンバル体験交流プロジェクトが行われました。午前中は「まちゆんどプロジェクト」の一環で、キャリア教育カードゲームを体験しました。カードゲームを楽しみながら、職業に必要なスキルと価値観に対して、どのようなアクションが必要になるかを学び、自分の将来を考えるいい機会になりました。続いて午後からは、和泊町と沖縄県今帰仁村をオンラインでつなぎ、「特産品を交換しよう」をテーマに、特産品の作り方や特徴などを発表し交流を図りました。沖永良部から参加した児童生徒27名は事前(12月11日)に、地元のお菓子「ヤジ豆」・貝殻などを使った「美ら玉」のキーホルダー・今帰仁村交流をイメージしたプリントTシャツの3点を制作。今帰仁村から参加した児童生徒19名は琉球紅型のトートバックを作り、お互いにプレゼント交換をしました。参加した児童生徒は、コロナの影響がなければ、来年度こそ直接交流したいと話していました。



順	チ ャ ム 名	総合タイム
1	手々知名	2:01'17"
2	国頭ガジュマル	2:03'07"
3	和泊高千穂	2:05'26"
4	西原	2:07'42"
5	世之主	2:09'18"
6	根折	2:12'29"
7	玉城	2:13'31"
8	出花	2:14'10"
9	和泊いしご	2:18'33"
10	喜美留	2:19'50"
11	わんたろう	2:19'52"
12	畦布	2:22'03"
13	国頭フーチャ	2:22'56"
	与和の浜	途中棄権

## 第51回新春町内一周駅伝競走大会

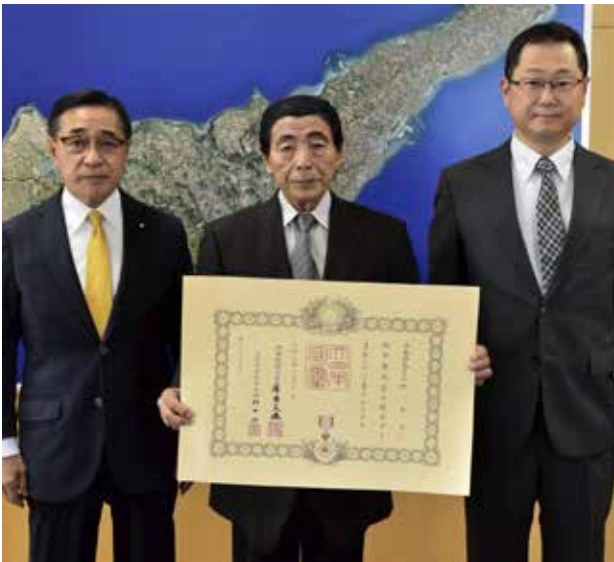
1月1日、新年恒例の第51回新春町内一周駅伝競走大会が行われ、14チームが出場しました。今大会は、昨年の大会よりも各チームがタイムを縮めており、順位が激しく入れ替わる白熱したレース展開となりました。Aブロックでは手々知名チームが9連覇を成し遂げ、Bブロックでも世之主チームが4連覇を達成。また、5区では手々知名字の武田 星莉さんが区間記録を更新しました。

# TOPICS



## 沖永良部音楽コンクール

12月12日、和泊中学校あかね文化ホールにおいて、第38回沖永良部音楽コンクールが行われました。今回は新たにソロ部門が追加され、ピアノ部門27名・声楽部門4名・アンサンブル部門2団体・ソロ部門3名が出場し、日頃の練習の成果を披露していました。また、コンクール全体を通しての最高得点者には、和泊町出身で音楽家の(故)武田恵喜秀氏にちなんだ「武田賞」がピアノ部門に出場した、前田 悠羽さん(知名中学校1年)に贈られました。



## 叙勲伝達式

12月10日、町長室において叙勲伝達式が行われ、和 正巳氏へ、旭日単光章が授与されました。和氏は、5期20年の長きにわたり、和泊町議会議員を務め、町民の福祉向上や町政発展のために尽力されました。



## 和泊町町制施行 80 周年記念 航空自衛隊南西航空音楽隊 ふれあいコンサート

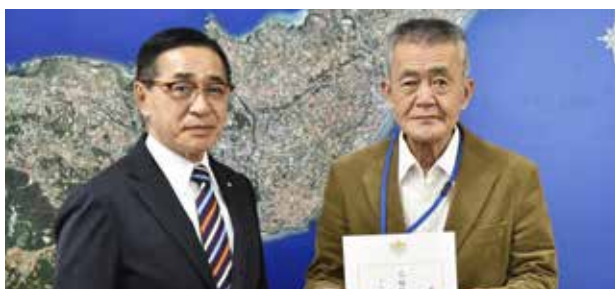
12月11日、和泊中学校体育館において、航空自衛隊南西航空音楽隊によるふれあいコンサートが行われました。ジャズやポップスなど馴染みのある全14曲を演奏し、会場に集まった町民を魅了しました。また、和泊中学校吹奏楽部・城ヶ丘中学校ボランディア部とのコラボレーションも行われ、会場全体を沸かせました。

# TOPICS



## 阪神タイガース近本光司選手の自主トレ

阪神タイガースの近本光司選手が、1月8日から22日までの約2週間、沖永良部島で自主トレを行いました。沖永良部での自主トレは昨年に続き2回目となります。近本光司選手は、2021年にシーズン最多安打(178安打)のタイトルを獲得。ゴールデングラブ賞・ベストナインにも選出され、阪神タイガースの中心選手として活躍しました。今回の来島では、昨年かなわなかった野球教室を、城ヶ丘中学校グラウンドで開催。キャッチボールやロングティーなどを島内の野球スポーツ少年団・中学校野球部と共に行いました。また、サンサンテレビへの出演など、自主トレ以外でも精力的に活動していただきました。今年も沖永良部島から近本光司選手を応援しましょう！



## 人権擁護委員委嘱状伝達式

1月12日、町長室において、人権擁護委員委嘱状伝達式が行われ、前 幸貴氏が再任されました。前さんは、平成24年から人権擁護委員を務め、各こども園や、小・中学校及び高齢者の方々を対象に、人権教室や特設人権相談所の開設等、人権相談対応の啓発活動に尽力され、昨年6月には、全国人権擁護委員連合会長表彰も受賞しました。前さんは再任にあたり、「今後も地域の皆さんに人権について関心をもってもらえるよう活動をおこなってまいりますので、悩みや困りごとがありましたら、一人で悩まずご相談ください。」と述べられました。



## 第22回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール受賞

「第22回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」において、和泊小学校3年の盛山<sup>ゆいか</sup>結花さんが、奄美海上保安部長賞(小学生低学年の部)を受賞しました。今回は新型コロナウイルス感染拡大に伴い表彰式は行われませんでした。本誌上で今回受賞した作品をご鑑賞ください。

# TOPICS



## 令和4年 和泊町成人式

1月2日、和泊中学校体育館において、令和4年和泊町成人式が行われました。今回の成人式は、平成13年度に生まれた71名が参加。シーブラーによるオープニングセレモニーを皮切りに開催され、新成人代表として、徳田 朱音さん(和泊字)・平 南一輝さん(永嶺字)が、今後の目標と誓いの言葉を述べました。



## 第31回新春書初め会

1月5日、防災拠点施設やすらぎ館において、第31回新春書初め会が行われました。小学1年生から一般の方まで22名が参加し、日頃の練習の成果を披露しました。また、沖永良部高校書道部による書道パフォーマンスも行われ、会場は大いに盛り上がりました。



## 令和4年 消防出初式

1月6日、和泊中学校グラウンドにおいて、令和4年消防出初式が行われました。役場庁庭から和泊中学校までのパレードに続き、各分団と役場自衛消防隊による訓練が披露されました。その後、大城・内城こども園の園児による規律訓練の披露や式典などが行われました。

# 確定申告は正しくお早めに!

令和3年分の所得税・復興特別所得税・消費税・地方消費税及び贈与税の確定申告期限は次のとおりです。

所得税及び復興特別所得税	令和4年2月16日(水)から令和4年3月15日(火)まで
消費税及び地方消費税(個人事業者)	令和4年1月4日(火)から令和4年3月31日(木)まで
贈与税	令和4年2月1日(火)から令和4年3月15日(火)まで

- 税務署では、来場される皆様の健康と安全を考慮し、職員の手洗い・うがいやマスク着用など、感染予防対策を講じています。来場される皆様についても手洗い・マスクの着用など、感染予防へのご協力をお願いします。
- 確定申告書は、パソコン・スマホを利用して、国税庁ホームページ「確定申告書等作成コーナー」からご自宅で作成し、e-Taxまたは印刷して所管税務署へ郵送等により提出することもできますので、ご利用下さい。

詳しくは、国税庁ホームページ(<https://www.nta.go.jp>)をご覧ください。最寄りの税務署にお尋ね下さい。

大島税務署 / TEL:0997-52-4321 ※自動音声案内

## 水土里サークル活動

### 「さあ みんなで取り組もう」

水土里サークル活動とは地域の共同活動により農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図り、地域資源の適切な保全管理を行う活動で国・県・町が多面的機能支払交付金により支援しています。和泊町では、年間を通して和泊町広域協定運営委員会を中心に、21集落が水土里サークル活動を実施。農地法面やため池周りの草刈り等、様々な活動で地域資源の保全や質的向上を図る活動を行っています。みんなでこの活動に取り組み、農業と地域の関わりを考えながら資源を守り、更には地域の絆で活性化を図っていきましょう。詳細については、役場耕地課水土里サークル活動担当者までご連絡下さい。

和泊町役場耕地課 / TEL:0997-84-3519

## 令和3年分

### 確定申告の受付について

営業・農業所得、譲渡所得等のある方、贈与税・消費税の申告が必要な方は、下記日程で申告を行って下さい。

日時	3月1日(火) 午前9時～午後4時 3月2日(水) 午前9時～午前12時
場所	和泊町防災拠点施設やすらぎ館

- 新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、ご自宅から申告できるe-Taxをご利用下さい。不明な点は、大島税務署にお問い合わせ下さい。
- 確定申告の受付は税務課窓口及び字公民館では行っておりません。必要書類を準備し、必ず上記期間内に確定申告会場にお越し下さい。

大島税務署 / TEL:0997-52-4321

# INFORMATION

## 3月は「自殺対策強化月間」

自殺は、その多くが様々な社会的要因により追い込まれた末の死であり、誰にでも起こり得る社会的問題です。私たち一人ひとりが関心と理解を示し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現を目指し、社会全体で自殺対策に取り組むことが大切です。身近な人のいつもと違う様子に気づいたら、声をかける・話を聴く・見守る、または、専門家へつなぎましょう。もし、あなたが悩み事を抱えていたら、信頼できる人に相談して下さい。

### 「相談窓口」

- ところの電話：090-9604-5574
- 和泊町保健センター：0997-84-3526
- 県精神保健センター：099-218-4755
- いのちの電話：099-250-7000
- はっぴい：0997-92-0108
- よりそいホットライン：0120-279-338

## 予約制による年金相談のご案内

年金相談のご予約は、お電話又は年金相談窓口でお受けいたします。ご予約を受け付ける際には、相談者及び配偶者氏名、基礎年金番号、電話番号、相談内容等について確認させていただきます。

### 「開設・予約時間帯・会場」

- 令和4年3月9日(水)  
14時～17時(予約時間帯 14時～16時)
- 令和4年3月10日(木)  
9時～12時(予約時間帯 9時～11時)
- 会場：中央公民館会議室

※予約状況により、ご希望の日時を調整させていただきます。あらかじめご了承願います。

※年金相談にお越しの際は、年金手帳(基礎年金番号通知書)、年金証書、振込通知書などのほか、相談者本人であることを確認できるものをご持参のうえ、予約時間までにお越しください。

※代理の方がご相談に来られる際は、委任状と来られる方の身分証明(運転免許証など顔写真のあるもの)が必要になります。

※ご都合により来庁できない場合には、事前にご連絡をお願いいたします。

### 「予約申込電話番号」

- 町民支援課 年金係：0997-84-3516

## 世界自閉症啓発デー・

### 発達障害啓発週間について

毎年4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」、また、同日から8日までは「発達障害啓発週間」です。自閉症をはじめとする発達障害の方は、他人の意図や感情を直感的に理解したり、言葉を適切に使うことなどが苦手な場合があります。学校や職場でさまざまな問題や困難に直面することがあります。これらは、親のしつけや家庭環境が原因ではなく、脳機能の発達に関係するもので、見た目には障害があることがわかりにくいいため、行動や態度が誤解されることがあります。発達障害の特徴を知り、正しく理解していただくことが大切です。

### 「問い合わせ先」

- 県庁障害福祉課：099-286-2744

## 「指定外来動植物」に2種が追加!

- ツヤオオズアリ(動物：1種)
- オオカナダモ(植物：1種)

# 休日診療のお知らせ

4/24	4/17	4/10	4/3	3/27	3/21	3/20	3/13	3/6	2/27
本部医院	朝戸医院	大蔵医院	町田医院	福山医院	本部医院	朝戸医院	大蔵医院	町田医院	福山医院

※変更になる場合があります。当番医院にご確認の上、ご来院下さい。

永良部  
世の主  
その十六

町内各所に眠る謎の古墓

本連載でたびたび登場する世之主の墓（県指定文化財【史跡】）。永良部世の主が葬られているとされ、奄美群島随一の規模を誇る古墓ですが、この他にも、島内には数々の古墓が：

令和4年1月28日、第2回和泊町の古墓調査検討委員会（委員長…上原静沖 国際大学名誉教授）が開催されました。会合では、有識者・県文化財課・文化庁・知名町教育委員会が参加し、①島内トゥール墓群の国史跡指定に向けた取組、②令和2～3年度調査成果と課題、③今後の事業計画について協議がなされました。協議事項②の中で本町より、古墓分布調査成果として、喜美留トゥールチヂ・大城のトゥール墓・皆川の崖下墓・当田の森古墓群（後蘭く谷山）の調査報告を行い、一部は、有識者による現地指導を実施しました※古墓名称は仮称を含む。

それらの古墓の中には、石灰岩を掘り込んだ墓室や削った岩壁や石積みで囲まれた前庭を持つなど、世之主の墓と共通する構造を持つものが見られます。世之主の墓をモデルとし各墓が造られたのか？各地の墓の集大成が世之主の墓なのか？一方、知名町指定文化財の4つの墓は、それぞれ外観のデザインが多彩です。大きさだけでなく構造的バリエーションも豊富な沖永良部島の古墓群ですが、現在までの調査で、いつ頃まで使われていたのかは、遺物（蔵骨器・お供えした器等）の時期でおよその判断ができそうです。しかし、その墓がいつ造られたのかを示す情報には手が届いていません。

和泊・知名両町教育委員会では、県・文化庁と協議し、沖永良部島のトゥール墓群の令和8年度国史跡指定に向けたロードマップを作成。検討委員会で整理された課題を一つ一つクリアし、目標達成に努めていきます。



大城のトゥール墓

和泊町教育委員会事務局 電話：0997-92-0300

元気！わどまりクラブ通信！

クラブ内のバレー、ミニバレーサークルを中心に、クラブCUP「サークル親睦ミニバレー大会」を開催しました。元気！わどまりクラブでは、会員の皆様の活動の場として他にもバドミントン、太極拳などのサークル活動を開催しています。サークル活動は会員の皆様はどなたでもご参加いただくことが出来ます。町民の皆様も健康づくりのため、各種サークル活動に参加されてみてはいかがでしょうか。



サークル親睦ミニバレー大会



サークル親睦ミニバレー大会

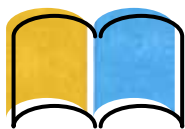


城中ミニバレーAチーム優勝

令和4年度「元気！わどまりクラブ会員」の募集を3月23日(水)より開始致します。お申し込みは和泊町教育委員会事務局までお越し下さい。※スポ少3/18ㄨ切、教室・サークル等団体3/22より順次受付開始

元気！わどまりクラブ事務局 [電話] 0997-92-0300 [Facebook] <https://www.facebook.com/genkiwadomari>





# Library

## 若い人に贈る「今読んでほしい!」の本棚

卒業や進学・就職と、新たな一步を踏み出した「若い人」に読んでほしい本を貸出しています。出会う本はあなたの人生を支える力になります。皆さんに良き本との出会いがありますように!



『他者の靴を履く』  
著:ブレディみかこ

意見の異なる相手を理解する知的能力「エンパシー」をめぐる思索の旅。“負債道徳”からジェンダーロールまで、現代社会のさまざまな思い込みを解き放つ。多様性の時代、「アナーキック・エンパシー」は今を生き抜く重要なスキルだ。



『みんなに好かれなくていい』  
著:和田秀樹

「友だちが多いほうが幸せ」は本当か? 「ひとりぼっちって悲しいことなのか?」10人いればそのうち数人は、あなたのことが嫌い・もしくは興味がないのが当たり前。そもそも無理な「みんな仲良し」幻想から幸せに抜け出す方法は? 「自分の人生の価値は自分でできる」ことができる大人になろう。



『思考からの逃走』  
著:岡崎裕史

なぜ人間は「自分で考えること」を手放すのか? 9割の学生が望む進路相談、だれも疑わない検索エンジン。失敗を受け入れない現代社会の問題を幅広く解説。「自分で考えること」を手放した人間に、未来はあるのか?

## イベント

●「赤ちゃんおはなし会」 日時:令和4年3月17日(木) 午前10時30分~11時 対象:乳幼児と保護者  
※ 事前予約制 ※ 新型コロナウイルスの感染状況により、延期・中止する場合があります。

### 新着本 / 一般書

『心が揺れがちな時代に「私は私」で生きるには』 著者:高尾 美穂

『書く習慣』 著者:いしかわ ゆき

あたらしくはいったほん / じどうしょ

『国語をめぐる冒険』 かいたひと:渡部 泰明

### 寄贈書

『0から学べる島むに読本』 寄贈者:横山 晶子

### 寄贈書

『ラストコード』 他 30冊 寄贈者:森 そめ子

『上を向いて生きる』 他 20冊 寄贈者:山田 政廣

『枯葉の光る場所』 他 16冊 寄贈者:柳 平治郎

『奄美・喜界島の沖縄戦』 寄贈者:宗村 森信

『自立神経を整える「あきらめる」健康法』 他 20冊 寄贈者:村吉 良子

『方丈記・平家物語』 他 1冊 寄贈者:葛原 良永

※この他にもたくさん配架しています。

和泊町立図書館

TEL:92-3033/FAX:92-0773



- 休館日は月曜日と一部祝日、そして毎月最終週の木曜日(整理休館日)です。ご理解とご協力をお願いいたします。詳しくは、町立図書館のホームページでご確認下さい。
- 10月から3月末まで、開館時間は午前9時30分~午後6時となります。

利用者の皆様へ 図書館をご利用の際は、マスク着用・手指消毒・本を入れるバッグの持参にご協力下さい。

# 21のお話

## 第11回「和字」のお話

かつての和字は、ソーゴを源とした水田や畑があり、農家が多い地域であった。また、沖永良部島では珍しい鉱山地帯としても有名であったという。沖永良部島における鉱業は、明治中期から大正にかけて、和字の大野勉正氏が和のヒーゴ川や上手々知名のナーゴ山、瀬名などでマンガンを採掘したのが始まりだとされている。また、和字はレアメタルのアンチモニーが採掘されていた唯一の字であり、良質なアンチモニー鉱であった。アンチモニー鉱は、ソーゴから前川を通じ、奥川への途にある。そのアンチモニーは、鉛蓄電池や合金金属として使用されるレアメタルの一種で、昭和18年頃まで採掘していたが、戦時中に輸送ができなくなり封鎖することとなった。封鎖まで、沖永良部島には鉱夫（鉱山で鉱石を掘り出す労働者）がいなかったため、鹿児島本土から呼び寄せ、地元の青年は見習い鉱夫として、女性は選別・運搬役として働いていた。ヒーゴ帯のマンガンやアンチモニー採掘のために奥川の水量が減ったとも言われるほど、盛んに採掘されていたという。現在のマンガン鉱は、畑地となっており、アンチモニー鉱は、草木に覆われており雨の時は、たどり着くのが難しくなっている。鉱業の貴重な歴史を後世に残す場所なので、一度訪れてみてはいかがだろうか。



アンチモニー鉱入口

沖永良部島の行政区分の地図ができたのは、今から三十七年前である。幕府は各藩に命じて国絵図を作製させた。薩摩藩も薩摩・大隅・日向国の国絵図と共に、支配下に置いた琉球国の国絵図も作製したのである。作製された地図を見ると、実に見事である。沖永良部島の地図には、「永良部嶋高四千五百五拾八石五斗嶋廻拾里十八町」とある。そして、喜美留間切・大城間切・徳時間切が記されている。間切とは現在の町区画に相当し、当時島内は、三つに区分されていたことが分かる。島の東部は喜美留間切、中央部が大城間切、西部が徳時間切であった。

## 揺蕩いのアイデンティティー 第8回

石と記録されている。島の中心で世之主的城跡も残り、米所のナージマの石高が半分ほどで少ないのはどうしたことであろうか。

一六九〇年、沖永良部にも薩摩藩士が常駐する代官所が、和泊に置かれると、徳時間切が久志検間切に変更され石高が均等になった。管轄する集落は分散し、入り混じった状態になった。

その後、一八五七年に三間切に点在していた集落を近隣にまとめて、名称も和泊方・東方・西方と改称した。

この方制が一八八〇（明治三）年には十二区分に、翌年に六区分、さらに一八八二年に三区分になった。そして一八八七年に二区分となり、名称が和泊村と知名村になったのは、一九〇七（明治四〇）年であった。

歩み編さん執筆編集委員 先田光演

## はなしゃぬわらび



中山 月ちゃん（1歳3か月）

好き嫌いがはっきりしている月ちゃん。ミニトマトと苺とダンスが大好き！いつも音楽に合わせて踊りだします！！

# 戸籍の窓

## 町の人口

※ 2月1日現在( )は前月比  
※ 外国人を含む

総人口:6,300人(-19) 世帯数:3,276 戸(-10)

男性:3,126人(-3) 女性:3,174人(-16)

### 結婚

氏名	住所
池田 亮・泉 碧依	西原・出花
先山 慎太郎・沖田 梨穂	国頭・瀬名
平 尚人・川畑 恵里香	内城・手々知名

### 出産

子の名前	性別	保護者	住所
菅村 琉藍(るあい)	女	文雄・弥那子	喜美留
末川 小梅(こうめ)	女	航・文子	和泊

### おくやみ

月日	故人	歳	住所
11/24	上村 富男	99	古里
11/25	有馬 義和	69	玉城
11/27	森 ツル	96	畦布
12/3	三島 テツ	101	畦布
12/8	川畑 ツヤ	93	出花
12/10	松元 ミネ子	94	玉城
12/11	盛岡 美津枝	82	手々知名
12/15	清水 ミヨ	93	畦布
12/18	西村 盛幸	72	国頭
1 / 3	岡 友子	80	西原

### おくやみ

月日	故人	歳	住所
1 / 5	棚窪 トヨ	91	国頭
1 / 6	兒玉 ツル工	94	大城
1/17	川間 富寛	99	国頭
1/20	和田 ウメ	96	喜美留
1/23	坪山 キミ工	88	国頭

### 香典返し

寄付者	故人	続柄	住所
野山 弘美	有馬 義和	兄	大城
重村 裕子	上村 富男	父	古里
森 晃	森 ツル	母	畦布
三島 敬志	三島 光枝	妻	畦布
和田 八重	和田 雄助	夫	和
川畑 輝明	川畑 ツヤ	母	出花
盛岡 英樹	盛岡 美津枝	母	手々知名
山下 信彦	山下 フミ	母	根折
和田 一也	和田 ウメ	叔母	横浜市
島 伸行	島 ナツ子	母	手々知名
林 藤義	林 ミヤ子	妻	和
大福 富吉	大福 幸造	子	和泊

2021年12月1日から2022年1月30日までのお届けのうち、掲載依頼のあった届けのみを掲載しています。(敬称略)

## 地域おこし協力隊日記

地域おこし協力隊「ちむぐるプランナー」として、11月8日に着任して3か月ほどが経ちました。島に到着した日、役場の方が「歓迎！」の横断幕で迎えてくれたことは、嬉しく涙しそのうになり、とても温かい気持ちになったことを覚えています。この気持ちを忘れないために、自分の部屋に横断幕を飾っています。ちむぐるプランナーとして、子どもたちに島のこともっと好きになってもらう、島の仕事について知ってもらう、この2つの目的を持ってイベントなどを行う予定です。島一年生として、なるべく多くの島民と話し、島のことを教えてもらいながら活動していこうと思っています。島に来てから出会ったもの、初めて見る野菜や昆虫、海の色と風の音、新しいものや知らないものに出会った時の感動や清々しい気持ちを、子どもたちにもたくさん届けられたら、温かく、楽しい気持ちになってもらえるのかなと勝手に想像しています。島への興味や島との付き合い方も様々になってくると思います。子どもたちが新しい形での付き合い方を作るかもしれないですね。子どもたちにイベントを届けながら、同時に子どもたちからパワーを受け取り、子どもたちの尽きることはない好奇心と興味を生む活動を続けていくのが目標です。

ちむぐるプランナー 谷口勇志

自転車の力で“南の島”を元気に!

# チャリおこし協力隊募集!

和泊町では「地域おこし協力隊」を募集中です。自転車の力を活用して島を元気にする、そんな人材を求めています。島外にお住まいのご家族やご友人で、興味のある方はいらっしゃいませんか?



和泊町役場土木課[担当:平山] / TEL:0997-84-3520 / MAIL:doboku@town.wadomari.lg.jp

## 有料広告募集!

和泊町の広報誌「わどまり」に広告を掲載してみませんか?あなたのお店や会社、イベント等のPRに是非お役立て下さい!

- 掲載料(1枠あたり): 町内 15,000円 / 号  
町外 20,000円 / 号
- 掲載枠数: 各号最大2枠
- 申込期限: 発行日の1か月前まで
- 申込資格: 「和泊町広告掲載取扱要綱」を遵守できる方
- 規 格: サイズ / 縦122mm × 横92.5mm

※原稿は本媒体に適した形式及び解像度のデータを提出して下さい。

詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

【申込・お問い合わせ】  
和泊町役場企画課 / TEL: 0997-84-3513



ここが広告スペースです。



和泊町広報誌「わどまり」は地方自治体の情報をお届けするアプリ「マチイロ」でもご覧になれます。

iOS

Android

